

社會醫學並統計

我國ノ結核撲滅策ト其ノ財源ニ關スル一考察

大連市滿鐵本社

南滿洲保養院創立事務所

醫學博士 遠藤 繁 清

緒言

我國ハ結核ノ慘害ニ於イテ列國ノ首位ニアリ、然シテ其豫防治療ノ施設ニ於イテハ列國ノ最低位ニアリ、誠ニ遺憾ニ堪ヘズ。今結核死亡率ト結核病床數(療養所、豫防院及ビ病院ノ結核病棟乃至結核病室ノ病床總數)ニ就キテ、各國ノ比較ヲ見シニ、左表ノ如ク、歐米ニ比シテ其ノ差アマリニ大ナルニ驚カザルヲ得ズ。

國名	結核病床數	一年間ノ結核死亡數	結核死亡者百名ニ對スル結核病
デンマーク	三、五六五	二、八一	一一六・六
キヤナダ	九、七四九	七、九三〇	一一二・九
ドイツ	五一、五七一	六一、四〇八	八四・〇
北米合衆國	七二、七二三	八七、五六七	八三・一
オーストリー	九、〇六三	一一、六三六	七七・九
イングラント・ウエールス	二三、一九八	三八、一七三	六〇・八
フランス	二四、三九〇	六六、八四三	三六・五
ベルジウム	二、六二〇	七、九三四	三三・〇

イ	タ	リ	一五、九一七	五九、八二七	二六・六
チ	エ	ッ	六、二二九	二八、〇〇〇	二二・二
ハ	ン	ガ	三、三五〇	二〇、三四五	一六・五
日		本	六、二一六	一一、九四三	九・二

(右表ハ昭和五年五月内務省衛生局ノ發表ニ係リ、主トシテ一九二七年現在ニヨル)

若シ永ク斯ノ如クシテ推移センカ、我國ノ前途ハ實ニ寒心ニ堪ヘザルモノアリ。百數十萬ノ結核患者ヲ擁シ、年々十數萬ノ生靈ヲ失ヒ、種々ノ悲劇ヲ生ジ、國家經濟上及ビ人道^上、袖手傍觀ヲ久フスル事能ハズ。又結核ノ故ニ職ヲ失ヒ、療養ノ途ハ無ク、其結果、自暴自棄ニ陥リ、遂ニ社會ヲノロイ、過激思想ヲ抱クニ至ル者多キハ、過去ノ不逞事件ノヨク證明スル處ニシテ、誠ニ聖代ノ一大不祥事ト云ハザルベカラズ。結核問題ノ解決在再日ヲ經ル間ニ、陛下ノ善良ナル赤子が、滔々トシテ赤化スルモノアリトセバ、憂國ノ士一日モ晏如タル能ハズ。猶又陸海軍ノ軍人ニシテ、結核ニ罹ル者モ少カラザレド、除隊後ノ療養マデ保證セラル、ノ制ナク、一私人トシテ加療センニモ、亦其途ナキ者大多數ナレバ、是亦同情ノ念ヲ禁ジ難キト同時ニ、思想ノ惡化ヲ憂慮セシムルモノナリ。之ヲ思ヒ彼ヲ思フ時、爲政者ト云ハズ、宗教家ト云ハズ、教育家ト云ハズ、醫家ト云ハズ、士農工商、有産無産、凡ソ國家ヲ愛スル者、凡ソ同胞ノ健康ヲ希フ者、凡ソ子孫ノ福祉ヲ祈ル者、舉ツテ結核問題ノ解決ニ當ラザルベカラズ。國民ノ健康ナクシテ何ノ軍備ゾ、國民多ク病弱ニシテ何ノ文化ゾ。英、米、キャナダ等ノ富國ハ云フマデモナク、カノドイツ、フランス、イタリー、チエッコスロヴァキア等、經濟國難、我國ニ勝ルトモ劣ルナキ國々スラ、國運ノ繫ル重大問題トシテ、結核撲滅事業ニ多大ノ努力ヲ拂ヒ、着々目的ヲ達シツ、アルニ際シテ、獨リ我國ガ今日尙、結核病國ノ醜名ヲ馳セツ、アルハ、慨嘆ニ堪ヘザル處ナリ。

對策五項

之ガ對策ハ、勿論多種多樣、四五ニシテ止マラズト雖モ、就中緊急ナリト信ズル五項目ヲ擧グレバ左ノ如シ。

一、結核豫防法ノ勵行ニヨル結核療養所ノ増設。

- 二、市(人口五萬以下)町村結核患者療養費ニ對スル國庫補助。
- 三、豫防院及ビ「デイスペンサリー」(結核早期診斷及ビ豫防治療相談所)ノ設置。
- 四、虛弱兒童小學校ノ設置。
- 五、建築條令ノ改正(家屋ニ開閉式ノ欄間ヲ設ケシムル事)。

(參考) 現行「結核豫防法」拔萃

第六條 主務大臣ハ結核患者(肺結核又ハ喉頭結核ニシテ、病毒傳播ノ危險アルモノ)ニシテ、療養ノ途ナキモノヲ收容セシムル爲、人口五萬以上ノ市又ハ特ニ必要ト認ムル其他ノ公共團體ニ對シテ、結核療養所ノ設置ヲ命スル事ヲ得。

第八條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ、第六條ノ規定ニヨリ、結核療養所ヲ設置スル公共團體ニ對シ、其結核療養所ニ關シ公共團體ノ支出スル經費ノ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス。

(勅令ニヨリ創設費及ヒ擴張費並ニ之ニ伴フ初度調辨費ハ二分ノ一、其他ノ諸費ハ四分ノ一ト決定セリ)

前記五項ハ、既ニ各方面ノ提唱セル處ニシテ、結核豫防協會其他ノ團體ヨリ當局ニ建議セラレタルモアリ、或ハソレ等ト大同小異ナルアリ、或ハ個人的ニ提案セルモアリ、恐ラク衆目ノ見ル處此五項ヲ以テ緊急事トナスニ異議ナカルベシ。唯第五項ニ就キテハ、或ハ其緊要性ヲ疑フ人モアルベシト雖モ、是吾人ノ健康殊ニ結核豫防上最モ必要ナル一要素タル、新鮮空氣ヲ如何ナル貧民ノ家庭ニモ、充分ニ供給シ得ル良法ニシテ、而モ壹錢ノ經費ヲ要セザル點ニ於テ財政難ノ我國ニ最モ適切ナルモノト信ジ、數年來、筆ニ口ニ余ノ提唱スル處ナリ。以下項ヲ追ツテ詳論セント欲ス。

一 結核豫防法ノ勵行ニヨル結核療養所ノ増設

結核豫防法發布セラレテ以來、既二十年ヲ經タル今日、該法ニヨリテ療養所設置ヲ了シタルハ僅カニ十數市、而カモ其收容力過小ニシテ、多數患者ハ、入所ノ許可ヲ、一日千秋ノ思ヲ以テ待チツ、空シク重症ニ陥ル。爾他ノ都市ニ於イ

テモ、着々新設スベクシテ、未ダ其運ニ至ラザルハ、蓋シ次ノ如キ理由ニアリト思ハル。

イ、國庫補助ノ財源乏シキ爲メ。

ロ、命令ヲ受ケン都市ニモ財源乏シキ爲メ。

ハ、地方民ガ敷地ニ關シテ反對運動ヲ起ス爲メ。

詮ジツムレバ此三箇條ノ外ニ出デザルガ、地方民ノ反對ノ如キハ、宜シク土地收用法ノ適用ニヨリテ解決スベキナリ。内務大臣ノ命令ニヨリテ設置スベキ結核療養所ハ、社會事業トシテモ、衛生事業トシテモ、立派ニ土地收用法ノ適用範圍ニ屬ス。今後ハ、嚴格ニ本法ヲ適用シ、我國ノ宿弊ヲ打破シテ、設置延期ノ口實ヲ與ヘザル事トスベキナリ。然ラバ殘ル處ハ、唯財源問題ノミ、即チ財源ニシテ見出サルレバ、其實現ヲ妨グルモノハアラザルナリ。

然ラバ、我國ニ於ケル結核患者全部ヲ收容センガ爲ニハ、何床ノ設備ヲ要スルヤト云フニ、歐米諸國ノ理想トセル標準、即チ一年間ノ結核死亡者ト同數以上トセバ、我國ニハ有料、無料合計少クモ十二萬床ヲ具備セザルベカラズ。今、差當リ人口五萬以上ノ都市ニ於ケル療養ノ途ナキ者ノ爲ニ一萬五千床、爾他市町村ノソレニ對シテ一萬五千床、合計三萬床ヲ設備シ、常ニ三萬人ノ救療ヲナスノ案ヲ樹テンニ、人口五萬以上ノ都市ノ一萬五千床ハ現行結核豫防法ノ勵行ニヨリテ設置スルコト、シ、爾他市町村ノ一萬五千床ハ特ニ新設セズ。官公立病院其他適當ト認メラレタル私立病院、又ハ療養所ノ病床ヲ適用セント欲ス、即チ後者ハ公費委託患者ノ形式ヲ採ルモノトナス。

然シテ現在人口五萬以上ノ都市ニ於ケル療法ノ途ナキモノ、收容セラレ得ル病床ハ、全國ニテ約二千床ナレバ、今後新タニ一萬三千床ヲ増設セントスルモノナリ。

今創立費ヲ一床當リ千五百圓(内務省ノ標準單價ハ千四百圓)ト見ル時、總額千九百五十萬圓ニシテ、市及ビ國庫各々九百七拾五萬圓ノ支出ヲ要ス。

而シテ之ガ完成ノ曉ニ要スル經營費ハ、患者一人一日貳圓ツ、ト假定シ、一萬五千人一年千九拾五萬圓ニテ、其内八百二十拾壹萬貳千五百圓ヲ當該公共團體ガ負擔シ、貳百七拾參萬七千五百圓ヲ國庫補助金トナス。是等ノ財源ハ後ニ述ブベシ。

二、市(人口五萬以下)町村結核患者療養費ニ對スル國庫補助

現行結核豫防法ニヨレバ、結核療養所設置ヲ命ゼラレシ都市以外ノ結核患者ニ對シテハ、療養費ノ補助金ヲ交付セズ。然ルニ人口五萬以下ノ小市及ビ町村ニ結核患者特ニ少キニハアラズ、否近時農村ニ於ケル結核ノ蔓延著シキモアリ。療養所ヲ有セザル公共團體ガ、其結核患者ヲ市立療養所ニ委託スル事ハ許サレ居ルト雖モ、一定數ノ患者ヲ委託救療スベキ法律上ノ義務ヲ負ヘルニアラズ、又其經費ハ患者ヲ委託セル公共團體自身ノ負擔ニシテ、國庫ハ之ニ關與セズ。故ニ實際上委託救療ノ豫算ヲ計上セザル公共團體ガ多數ナリ、否全部然ルヤモ知レズ。從ツテ小市、町村ノ結核患者ハ一層惠マレザル境遇ニアリト云フベシ。且又比較的處女地性ニ富メル村落ノ結核患者ハ、病毒傳播ノ危險モ甚大ナルガ故ニ、是等患者ノ救療ノ必要ハ大都市ノ患者ト大差アルヲ見ズ、即チ是等小市、町村ノ結核患者ニシテ、療養ノ途ナキモノ一萬五千人ヲ公費救療スルノ案ヲ樹ツレバ、一人一日貳圓ノ療養費ハ一年千九拾五萬圓トナリ、之ニ對シテモ四分ノ一ノ國庫補助ヲナストセバ貳百七拾參萬七千五百圓ヲ要シ、小市、町村自身ハ八百貳拾壹萬貳千五百圓ヲ負擔スル事トナルナリ。

而シテ是等ノ患者ハ、官公立病院及ビ適當ト認メラレタル私立病院又ハ療養所ニ委託スル事トナスベシ。是創設費ヲ省ク爲ノミナラズ、私立病院及ビ療養所ヲ保護獎勵スル事トナルベシ。カノ大學病院ノ如キモ、無料結核患者ノ數ヲ努メテ節セントシツ、アル現狀ナレドモ、此案ニヨレバ一日貳圓ヅ、ノ治療費ヲ市町村及ビ國庫ヨリ支拂ハル、ガ故ニ、無産患者ヲモ多數ニ收容スル事ヲ得ベシ。

然シテ其財源ニ就キテ述ブベシ。

三、豫防院及ビ「デイスペンサリー」(結核早期診斷及ビ豫防治療相談所)ノ設置

我國ニハ眞ニ「プレヴェントリウム」ト稱スベキモノ殆ンド無キガ故ニ、第一着ニ婦人結核患者ノ分娩セル乳兒、又ハ重症結核患者ト同家庭ニ在ル小兒丈ケナリト收容スベキ「プレヴェントリウム」ノ設置ヲ要スルモ、差當リ、前項療養所増設案ノ内ニ含メテ、適宜按配スルコトニヨリテ實行スベク、例ヘバ先ヅ東京、大阪、京都、名古屋、神戸、横濱等ノ療

養所増設案ノ一部ヲ、此ノ「ブレブエントリウム」案トセバ可ナラム。然シテ後ニ述ベントスル結核撲滅資金案ニシテ幸ニ具體化セバ、前項療養所増設案ノ完成後ニ、多クノ剩餘金ヲ生ズルガ故ニ、漸次各府縣ニ更ニ多數ノ「ブレブエントリウム」ヲ増設スルコトヲ得ベシ。

次ニ「デイスペンサリー」ハ、從來小規模ノモノ各地ニ設置セラレタリト雖モ、多クハソレ自身豫算ニ乏シキ爲、即必要ナル早期診斷ノ設備スラ缺クモノ多ク、物質ノ援助ハ殆ド出來ズ、療養所ニ收容セントスルモ、ソコニハ空床ナク、從ツテ「デイスペンサリー」トシテノ機能ヲ、充分ニ發揮セザルモノ多キモ、吾人ノ財源案ノ實現セル曉ニハ、勿論容易ニ完全ナル「デイスペンサリー」ヲ設ケ得ルノミナラズ、其際ハ既ニ療養施設モ整ヘルガ故ニ、患者ヲ遲滯ナク處理スル事ヲ得ベシ。

四、虛弱兒童小學校ノ設置

虛弱兒ヲ一般健康兒ト一率ニ教育スル事ハ、虛弱兒ヲ驅ツテ結核患者タラシムル危險甚大ナルガ故ニ、歐來諸國ハ競ツテ虛弱兒ニ對スル外氣學校ヲ設置シテ、好成績ヲ舉ゲツ、アルモ、我國ニ於イテハ小規模ノモノ、僅カニ四校アルニ過ギズ。今後多數増設スルコト極メテ緊要ナルガ、其實行案トシテハ、差當リ、各大都市ニテ、年々餘儀ナクセラレツ、アル小學校増築案ノ一部ヲ、虛弱兒ニ對スル外氣學校案トセバ、只幾分ノ豫算増加ノミニテ目的ヲ達シ得ベシ。他ノ小都會ニ於イテハ、特ニ獨立セル外氣學校ヲ設置セズ、保護學級ヲ設クル事トシテ可ナラム。是亦本案結核撲滅資金ノ充實ニ伴ヒ漸時完備セシムル事ヲ得ベシ。

五、建築條令ノ改正(家屋ニ開閉式ノ欄間ヲ設ケシムル事)

之ハ換氣設備ノ最モ簡單有效ナルモノトシテ、開閉自由ナル欄間ヲ總テノ家屋ニ設クベキ事ヲ條令ニヨリテ強制セントスルモノニテ、倉庫ノ如キ建物ヲ除キシ大多數ノ建築物ニ之ヲ適用セバ、換氣不良ノ非衛生家屋ハ逐年減少シ、何年カノ後ニハ、如何ナル貧民ト雖モ、天與ノ新鮮空氣ヲ充分ニ享受スルコトヲ得、結核豫防上及ビ治療上裨益スル處大ナルヲ信ズルモノナリ。

滿洲ノ建築ノ如キ、開閉式ノ欄間ヲ備ヘタルハ殆ンドナク、大多數ハ「ハメコロシ欄間」ニシテ、冬期間、普通窓ヲ密閉スル習慣アルガ故ニ、換氣ハ非常ニ不完全ニシテ、其非衛生ナルコト云フマデモナク、結核豫防上甚ダ遺憾ナルガ故ニ、建築條合ヲ以テ「ハメコロシ欄間」ヲ禁止シテ、開閉式タラシムルハ喫緊ノ事ニ屬ス。

而シテ本案ノ實行ニハ只法文一二行ノ追加ヲ要スルノミニシテ、一錢ノ豫算ヲ必要トセズ。

結核撲滅事業財源

財源ニ關シ、先ヅ吾人ノ念頭ニ浮ブモノヲ列記シテ、徐ロニ其利害ヲ検討セン。

(一) 郵便葉書ノ値上ゲ

結核撲滅事業ノ特別財源トシテ、從來ノ一錢五厘ヲ二錢ニ値上スルノ案

(二) 「ロツテリー」(富籤)

特ニ結核撲滅事業ノ爲ニ、「ロツテリー」ヲ國營ニテ行フカ、若クハ道府縣市又ハ結核豫防協會ニ特許スルノ案

(三) 寄附金募集、慈善興行、「バザー」、「シール」發賣等、從來ノ方法ノ擴大徹底ヲ期スルコト

(四) 結核豫防稅

特ニ結核撲滅事業資金ニ當ツベキ特別稅トシテ、一般國民ヨリ徵收スルノ案

(五) 煙草ノ値上ゲ及ビ酒稅、遊興稅ノ増率

一、葉書値上ゲ案ノ考案

本案ハ、全國民ガ舉ツテ參與スベキ結核撲滅事業ニ、全國民ガ各々分ニ應ジテ貢獻スル方法ニシテ、然モ徵收ノ事務ニ些ノ煩瑣ナク、否五厘トイフ端數ヲ除ク事ニヨリテ寧ロ事務簡捷トナルガ故ニ、收入ノ方法トシテ之以上簡易ノ良法ナク、且又其收入額ノ多大ナル事、之ニ及ブモノアリトシモ覺ヘズ。

但シ本案ハ勿論法律ノ改正ニヨラザルベカラズ。故ニ若シ其ノ改正ヲ待タズシテ、類似ノ效果ヲ收メントナラバ、隣邦支那ニ於テ實行セル如ク、任意的ニ特別印紙ヲ添附セシムル方法モ可ナラムモ、是全ク強制力ヲ缺ク故、收入ノ豫想モ

付カズ、實際收入モ多キヲ期シ難キモ、參考ノ爲支那ノ例ヲ述ベンニ、大正十一年七月一日ヨリ翌年六月末日ニ至ル一箇年間、饑饉救濟特別切手(一錢、十錢、一元、十元ノ四種)ヲ普通郵税ノ外ニ義捐金ノ意味ニテ貼附セシメタルナリ。此方法ハ毫モ強制セザル故、法律ノ改正ヲ要セザルノ便アルモ、其任意タル點ニ於イテ「クリスマスシール」ト同一ニテ、我國ニテハ其收益ノ大ヲ期シ難ク、只「クリスマスシール」ト異リ、政府自身ガ發賣スルガ故ニ、賣上高ノ多キハ勿論ナレド、實費ノ外宣傳費用ヲモ要シ、ソレ等ヲ差引ケバ實收入ハ存外少ナク、然カモ事務ハ煩雜トナルガ故ニ、葉書値上ゲノ無雜作ニシテ利益ノ大ナルニ及バザルハ明白ナリ。

楮テ葉書値上ゲニ對スル國民ノ意向如何ヲ考フルニ、凡ソ葉書ホド安キモノナシトハ、現ニ何人モ口ニスル處ニシテ、人夫ノ日給四拾五錢ナリシ明治三十三年頃ト今日ト、葉書値段ガ同一ナルハ寧ロ不合理ナリト云フベシ。故ニ五厘ノ値上ゲガ假令特殊ノ目的ヲ有セズ、一般歲入ニ入ルモノトシテモ、國民ノ不平ハナカルベシト思ハル、ニ、マシテヤ全國民ガ一日モ早クト熱望セル結核撲滅事業ノ完成ニ、直接寄與貢獻スル爲ノ五厘ヲ惜ム如キ、非愛國者ハ一人モ存セザルベシ。而カモ此値上ゲニヨリテ生ズル負擔ノ増加ハ、貧民ニ最モ輕クシテ(或ヒハ皆無ニシテ)略々富ノ程度ニ正比例スルト見ルモ可ナルベク、即チ一種ノ累進税ナルガ故ニ、結核療養所ノ如キ社會政策的事業ノ財源トシテ一層適切ナルヲ覺エシム。從ツテ本案ガ議會ニ上程セラル、ノ日ハ、各政黨悉ク協贊ヲ與フルニ躊躇セザルベキヲ期待ス。

今昭和三年度ノ葉書賣上高ヲ基礎トシテ計算スルニ、五厘値上ゲニヨリテ得ベキ總額ハ約一千五百萬圓ナリ。今假リニ二割ノ減少アリト見ルモ、約一千二百萬圓ノ實收入アリ。不景氣ノ爲ノ減少ハ別トシテ、値上ゲニ因ル減少ハ恐ラク少ナカルベク、逐年賣上高ノ増加スルモノト想像セラルガ故ニ、本案ハ他ニ比類ナキ好財源ト云ハザルベカラズ。

(參考) 郵便葉書引受數(昭和三年統
計ニ依ル)

日 本 内 地 朝 鮮

二、八七九、九六七、七一〇

六五、三五〇、六四八

臺灣、樺太、關東廳、南洋

四〇、〇四五、七五二

計

二、九八五、三六四、一一〇

(本項ノ調査ハ大連逓信局長櫻井學氏ノ御好意ニ據ルモノニシテ、茲ニ深謝ノ意ヲ表ス)

二、「ロ、テリ」案ノ考察

「ロツテリ」ハ既ニ外國ニモ例アル事ニシテ、其收益ノ利用方法ダニ可ナラバ、之ヲ單ニ射倖的ナリトテ排斥スベキニアラズ。我國ノ如キ結核問題ノ解決ニ何等好財源ナキ現狀ニ於イテハ、法律ノ改正ヲ斷行シテ政府自身「ロツテリ」ヲ行フモ可ナリ、或ハ道府縣市又ハ結核豫防協會等ニ之ヲ特許スルモ可ナラム。今外國ノ例ヲ見ルニ、英國ハ特許主義ヲ以ツテ「ロツテリ」ノ發行ヲ病院若クハ寺院ノ基金募集ノ爲等ニ許シ、全部「ロツテリ」ニテ建テラレシ教會スラモアリ。又ロンドンノ七十五個ノ病院モ「ロツテリ」ニ依ツテ資金ヲ得タリトイフ。

フランスモ特許主義ナルガ、國柄トシテ、美術藝術振興ノ爲ニ利用セラル、場合多シト云フ。ドイツ及ビイタリーハ國營トシ、ソノ收入ヲ國庫收入トナス。即チドイツハ一九一〇年度二億八千萬「マーク」、國民一人當リ四・三「マーク」、其後購賣額逐年増加スルガ故ニ、昨今ハ年三億千「マーク」(一億五千萬圓)ト推定セラル(滿鐵本社佐田弘治郎氏著。共濟富籤國營論ヨリ引用)。

又チエッコスロヴァキアニテ、余ガ視察セルブラーグ郊外ノ結核療養所ハ、二箇所共「ロツテリ」ノ收益ト國庫補助ニヨリテ創立セラレタリト云フ。

イタリーノ「ロツテリ」ハ、其方法殆ド純然タル賭博ナリトノ非難アレドモ、英國、チエッコスロヴァキアノ如ク、教會、病院、療養所等建設ノ目的ニノミ特許セル制度ニハ、何等弊害ナキモノ、如シ。英國ノ如キ宗教及ビ道德ノ方面ニ比較的ヤカマシキ國ニ於イテスラ、社會ノ福祉増進ノ爲ニハ「ロツテリ」ヲ利用シツ、アルヲ思ヘバ、我國ニ於イテ此崇高ナル目的ニ、「ロツテリ」ヲ利用スルニ何ノ心配モナキコトニテ、市井ノ富籤ト玉石混淆シテ排撃シ去ルハ不可ナリ。人往々「ロツテリ」ノ弊ヲ云々ス。然レドモ、結核ノ慘害ヲ放任スルノ不利ニ比スレバ、全ク問題ニアラザルナリ。嗚呼此「ロツテリ」ノ發行者ハ、政府自身即チ國營ニテモ勿論可ナレド、余ハ政府ノ結核事業資金トシテハ、葉書値上

ゲ案ヲ採用シ、市町村ノ財源トシテ、此「ロツテリー」ヲ地方長官或ハ市長ノ名ニ於イテ、若クハ結核豫防協會ノ名ニ於イテ、發行セシムルヲ以テ適當ナリト思惟ス。今三府一道四十三縣、各々「ロツテリー」ヲ行フモノトシ、各所一年二十萬乃至二百萬圓、即チ全國ニテ二千萬圓内外ノ收入ヲ得ル事、必ズシモ難事ニアラザルベシト想像ス。

然シテ其「ロツテリー」ノ實行ニ當リテハ、特ニ其方法ヲ研究シテ弊害ナキヲ期スベキハ無論ナリ。此點ニ關シテハ佐田弘治郎氏新著、『共濟富籤國營論』(大連市中日文
化協會發行)ハ好資料タルベシ。

三、寄附金募集其他從來行ハレシ方法ノ擴大

茲ニハ、從來行ハレシ資金募集方法ヲ、如何ニシテ擴大シ徹底センカラ論ゼントス。

歐米ニ於イテハ、以前ヨリ社會事業ニ對スル巨額ノ寄附金アリ、結核豫防事業ノ發達モ、決シテ政府ノ力ノミニ依頼セルニ非ズ、例ヘバ、赤十字ガ療養所ヲ建設スレバ、慈善團體ガ療養費ヲ負擔シテ、貧困患者ヲ委托スル如キ組織モ少カラズ、又慈善團體或ハ結核豫防協會自身、療養所又ハ豫防院ヲ設立セルモ少カラズ。

是等ノ豫防協會又ハ慈善團體ノ收入ハ、主トシテ寄附金ノ募集、「バザー」、茶會、晚餐會、慈善興行、「クリスマスツール」發賣、旗、「メダル」等ノ販賣ナドニヨルモノナルガ、イヅレモ我國ニ比シテ目覺マシキモノアリ。

我國ニ於イテハ、未ダ國民概シテ結核豫防事業ニ貢獻スルノ必要ト興味ヲ解セズ。此種社會事業ノ開始セラレテ日尙淺キ事モ其一因ナルベク、宗教思想ノ相異モ一因ナルベク、家族制度モ關係アルベシト雖モ、漸次結核問題ハ世人ノ注意ヲ喚起シツ、アルガ故ニ、將來ハ寄附金モ追々多額ニ上ルベキヲ信ズルモノナリ。只、當局モ事業當事者モ、一般社會モ、寄附者ニ對シテ十二分ノ敬意ヲ表スル事ヲ忘レザルヲ希望ス。

尙此機會ニ於イテ、歐米諸國民ガ結核問題ニ如何ニ熱心ナルカラ例示シテ、世人ノ注意ヲ乞ハント欲ス。米國ニ於ケル結核事業ノ主ナル財源ガ、「クリスマスツール」ナル事ハ、人ノ知ル處ナリ。其賣上高一年六百萬「ドル」ニ上ル事實、羨望ニ堪ヘズ。フランスモ同様ノモノヲ、「タンブル・アンチツベルクロー」ト稱シテ發賣セルモ、其成績未ダ米國ニハ及バズ、然シ其販賣ニ當リ、バリー市長等ノ熱心ナル援助獎勵ニヨリ、次第ニ好成績ヲ示シツ、アリ。又年末

ニバリー市中ヲ馳スル自動車ニハ、悉ク結核豫防協會ノ宣傳「カード」(タンブル・アンチツベルクロー)ト同意匠ニシテ大ナルモノ)ヲ其前硝子ニ貼附シ街頭ノ一異彩ナルガ、是自動車ノ所有主若クハ運轉手ガ一枚五「フラン」ヲ以テ買ヘルモノニテ、結核豫防事業ニ寄附セルノ意味ヲ爲ス。

我國ニ於イテモ、既ニ健康「シール」ノ發賣ヲ見タルモ、其賣上高ハ米國ノ何千分ノ一ニ適ギズ、吾人ノ奮發ヲ要スル處ナリ。然シ、米國トテモ今ヨリ二十三年前(一九〇七年)ニ於イテハ、三千「ドル」ノ賣上高ニ過ギザリシ事ヲ考フレバ、我國モ將來此方面ニテ相當ノ發展ヲ見シ事必ズシモ空想ニアラズ。吾人直接結核事業ニ携ハル者ハ、勿論一段ノ努力ヲ要スルモ、政府當局亦、之ニ對スル激勵援助ヲ吝マザラン事ヲ切望ス。

イタリーニ於テハ、ムッソリニ首相ガ「新イタリー」ノ建設ニハ、先ヅ國民ノ健康増進ヲ要ス、然シテ國民衛生ノ重心ハ結核豫防ニアリ」トナシ、銳意經營、先ヅ結核保險制度ヲ作り母性兒童保護事業ヲ起シ、療養所、豫防院、虛弱兒小學校、結核診療所ノ増設、結核専門醫養成所ノ創設(其資金ハ大工場主ヨリ)等ヲ行ヒ、母性兒童保護事業ニハ名譽總裁ニ皇后陛下ヲ奉戴シ、自ラ各種ノ施設ヲ歴訪巡視、獎勵至ラザルナク、結核専門醫養成所ニハベニト・ムッソリニ學校ノ名ヲ附シアリ、虛弱兒小學校ノ一ニハロザ・マルトニ・ムッソリニ(首相ノ母ノ名)ヲ冠セル事實ノミヲ見ルモ、首相自身眞劍ニ乘リ出シキル態度ヲ想見スルニ足ルベシ。

次ニチエツコスロヴアキアヲ見ルニ、同國ノ結核豫防協會ハ「對結核マツサリツク聯盟」ト稱ス、即テマツサリツク大統領ガ自カラ主宰シテ、結核豫防事業ニ當リツ、アリ、同國ガ建國日淺クシテ、而カモ一九一八年ヨリ一九二七年迄ノ十年足ラズノ間ニ、結核病床數ヲ三倍マデニ増加セシメ、人口トノ比例ヨリ見テ、我國ニ四倍スルノ床數ヲ具備セルモ偶然ニアラザルヲ見ルベシ。

更ニ眼ヲ英國ニ轉ゼンニ、同國ハ救療事業ニ對スル寄附金ノ多キ事ニ於イテ有名ナルガ、一九二八年中ニ於ケル各種救療事業ノ寄附金總額一億一千萬圓ニ達シタリ。又ジョージ陛下御全快奉祝ノ爲、エドワード七世病院ニ百十萬圓ノ寄附ヲ匿名ニテナセル人アリ。

「英國國民結核豫防協會」ハ一八九八年、時ノプリンス・オブ・ウエールス、後ノエドワード七世陛下御司會ノ下ニ「マルボロー」宮ノ御招宴ニ於イテ創立ヲ告ゲタルモノニテ、サリスバリー侯爵、ローズベリー伯爵等ノ演説アリ、殊ニ殿下ハ左ノ如キ演説ヲセラレテ、滿堂ニ非常ノ感激ヲ與ヘラレタリ。

「余ハ此重要ナル結核問題ニ對シテ、雷ニ深甚ノ興味ヲ持ツニ止マラス、此至難事業ノ促進上、余ノ力ニテ爲スベキモノアラバ、余ハ之ヲ實行シテ以テ、本會ニ余ノ援助ヲ與フル事ヲ、余ノ大ナル誇トス」。

斯クテ其後四半世紀ノ間ニ健全ナル發達ヲ遂ゲ、現ニ同會「バトロン」ノ筆頭ハジョージ陛下ニシテ、總裁ハ現プリンス・オブ・ウエールスナリ。然シテジューク・オブ・ベッドフォード、ジューク・オブ・ウエルリントン等ヲ始メ、朝野ノ名士、淑女、皆本會ニ盡瘁シ、特別基金百萬圓募集委員長テイツチフキールド侯爵夫人ノ如キモ、自ラ街頭ニ立チテ旗賣ヲナスナド、貴婦人ノ活動モ特筆ニ値スルモノアリ、吾人對結核戰ノ前線ニ立ツモノ、一層ノ奮勵努力ヲ要スルヲ痛感ス。

四、結核豫防税ノ考察

結核問題ノ如キハ、國民全部ガ責任ヲ以テ解決スベキモノナルガ故ニ、ミラノ市ニ於ケル如ク國民各々一定額ノ納税ヲナス事決シテ不合理ニアラズ。但シミラノ市ニテハ累進的ナラズシテ、一率ニ一人一年二分ノ一「リラ」(昭和四年ノ相場ニテ我ガ五錢五厘)、十人家族ナラバ五十五錢ナルモ、若シ我國ニテ之ヲ行ハンニハ、幾分累進的トナスベシ。楮テ實際問題トシテ考フル時、斯クノ如キ特別税ノ徵收ハ相當煩雜ナルト同時ニ、増税テフ聲ノミニテモ國民ノ不快ヲ招ク虞アリ、只一般歳入ニ編入セズシテ、國民自己ノ爲メニ焦眉ノ急ナル、結核問題ニ使用スル特殊財源ナルヲ明示セル事ニヨリ、國民必ズシモ反對セザルベク、且ツ此事業ヨリ直接恩惠ヲ受クルハ中産以下ナル故、中産以下モ無論納税ノ義務アルモ、中産以下ノ課税ハ元ヨリ零細ナラザルベカラズ、茲ニ實際徵税上ノ煩雜ニ惱ム事トナルベシ。此點葉書値上ゲ案ノ簡便ナルニ及バズ。

五、煙草値上ゲ及ビ酒税遊興税ノ増率

減稅論ノ喧シキ今日、之等ノ増稅ハ容易ニアラザラムモ、使用ノ目的ヲ明示セル増稅ニハ、必ズシモ不平アリトハ斷ズベカラズ。

イタリーニ於イテハ、健康國民ノ卽殖ヲ國是トシテ、母性兒童保護事業ヲ起シタルガ、其財源ハ獨身稅及ビ子無シ稅ナリ。是、事業ノ目的ト反對スル事項ヨリ其財源ヲ取ルモノニテ、合理的ノ主義ナリ。故ニ我國モ之ニ倣ヒテ、結核豫防下支障トナルベキ酒、煙草、遊興ナドヨリ結核豫限資金ヲ得ル事ハ不可ナラズ。

唯考フベキハ、酒モ煙草モ既ニ相當高値ニ上リ居リ、且又國民ノ大多數ハ聖人ニアラザルガ故ニ、之ガ増稅ハ國民ノ日常生活ヲアマリニ乾燥無味ナラシメ、且又一層經濟界ヲ沈滯セシムルトノ非難モ起ルベケレバ、理想論トシテハ可ナレド、實際問題トシテ、ヤハリ葉書値上ゲ案ニ及バズ。

總括

(一) 我國ノ結核問題對策ハ左ノ五項ヲ以テ喫緊トナス。

一、結核豫防法ノ勵行ニヨル結核療養所ノ増設

二、現行結核豫防法ノ範圍外ナル市町村結核患者ニ對スル療養費ノ國庫補助

三、豫防院(アレブメントリウム)及ビ「ディスペンサリー」(結核早期診斷及ビ豫防治療相談所)ノ設置

四、虛弱兒小學校ノ設置

五、建築條令ノ改正(家屋ニ開閉式ノ欄間ヲ設ケシムル事)

(一) 人口五萬以上ノ都市ニ既ニ設置セラレタル療養所ノ床數ハ約二千ナレバ、更ニ一萬三千床ヲ具備シ、合計一萬五千床ヲ以テ都市ニ於ケル療養ノ途ナキ結核患者ヲ收容スベキ案ヲ樹ツレバ、一床當リ千五百圓トシテ一萬三千床ノ總額千九百五十萬圓ヲ要シ、内九百七拾五萬圓ヲ當該各市ガ負擔シ、九百七拾五萬圓ヲ國庫ガ負擔スル事トナル。

(二) 右壹萬五千床ニ對スル經常費ハ患者一人一日貳圓ト見テ、一年千九拾五萬圓ニシテ、其四分ノ三即チ八百貳拾壹萬貳千五百圓ハ市ノ負擔ト成リ、貳百七拾參萬七千五百圓ハ國庫ノ補助ニヨル。

(四) 人口五萬以下ノ市及ビ町村ニ於ケル療養ノ途ナキ結核患者ハ、官公立病院及ビ適當ト認メタル私立病院及療養所ニ收容シテ療養セシムベシ。其經費ハ道府縣ノ負擔タルベキモ、實際ハ各地結核豫防協會ノ救療資金(其財源ハ後ニ記ス)ヨリ四分ノ三ヲ支出シ、四分ノ一ハ國庫補助トナスヲ可トス。但シ、此療養費ノ國庫補助ニ付キテハ、無論議會ノ協贊ヲ經テ、結核豫防法ヲ改正セザルベカラズ。

(五) 前項公費療養患者(人口五萬以下ノ市及ビ町村)ノ經常費ハ、一年一萬五千人トシテ千九十五萬圓ヲ要シ、道府縣(結核豫防協會ガ之ニ代ル事ヲ得)ガ八百二十一萬二千五百圓ヲ支出シ、國庫ハ年額二百七十三萬七千五百圓ヲ補助スル事トナル。

(六) 第二項ノ結核療養所増設案ニハ、豫防院(就中乳幼児ノ爲)ノ計畫ヲ含マシメ、差當リ、六大都市ニ之ヲ設置セシムベシ。結核豫防法ニ於ケル「病毒傳播ノ危險アルモノ」ヲ廣義ニ解シ、豫防院モ現行法ノ範圍内ニテ扱ハルレバ可ナルモ其解釋ニシテ不可ナラバ法律ノ改正ヲ要ス。

(七) 虛弱兒小學校モ、差當リ、六大都市ノ小學校増築計畫ノ一部ヲ之ニ當テ、他ハ保護學級制ヲ採レバ特ニ多額ノ經費ヲ要セズ、尙、後述財源案ニヨル資金ニシテ所期ノ額ニ達セバ、之ガ經費ノ支出ハ極メテ易々タルベシ。

(八) 政府ノ財源トシテハ、結核豫防特別税ノ徵收、酒税、遊興税ノ増率、煙草ノ値上ゲ等モ可ナルガ、最モ簡便ニシテ有利、而カモ議會ノ協贊ヲ得易キ可能性ニ於イテ、葉書ノ五厘値上ゲヲ最モ可ナリトス。即チ之ニヨリテ年額千貳百萬圓乃至千五百萬圓ヲ得ベク、之ヲ全部結核事業、就中療養所増設費及ビ經常費ノ補助金ニ充ツベシ。

(九) 道府縣市ノ結核事業資金トシテハ、寄附金、健康「シール」、慈善興行、其他ノ收入ニヨルコト勿論ナルガ、是等ハ吾人結核事業ニ携ハル者ノ主動的奮勵ニヨリテ、擴大徹底ヲ期セザルベカラズ。更ニ政府ハ結核撲滅事業資金タラシムル目的ニ限リ、道府縣市又ハ結核豫防協會ニ「ロツテリ」(富籤)ヲ特許スベシ、之ニヨリテ一年貳千萬圓内外ヲ得ル事難事ニアラズ。但シ議會ノ協贊ヲ得テ、法律ヲ改正スルコト勿論ナリ。

(十) 以上提唱セル案ニヨレバ、國庫ハ療養所創立費ノ補助金トシテ九百七拾五萬圓ノ支出ヲ要スルモ、葉書ノ五厘値上

ゲニョル一箇年ノ收益ハ之ヲ支辨シテ悠々餘リアリ。次ニ療養所完成後ノ經常費トシテハ、全國三萬人ノ療養費四分ノ一ノ補助金年々五百四拾七萬五千圓ヲ要スルノミナレバ、葉書値上ゲノ收益ヨリ之ヲ支辨シテ尙壹千萬圓近キ剩餘ヲ見ルベシ。於是進ンデ「プレブエントリウム」ノ増設、「デイスペンサリー」、虛弱兒小學校、國立結核研究所(附屬療養所ヲ有スル)其他必要ナル施設ヲ完成スル事ヲ得ベシ。道府縣市ノ豫算トシテハ、臨時費九百七拾五萬圓、經常費總額年一千六百四拾貳萬五千圓ヲ要スルモ、資金募集方法ヲ擴大シ、殊ニ「ロツテリー」案ヲ採用スレバ、綽々トシテ餘裕アルベシ。

結語

此提案ハ、我國ノ上下協力シテ解決スベキ亡國病ノ對策ナルガ故ニ、政黨政派ヲ超越シ、舉國一致ノ御贊同アラムコトヲ切望ス。不肖一介ノ醫學者、固ヨリ克ク事務ヲ解セズ、況ンヤ一國ノ政事ヲヤ。然ルニ僭越ノ謗ヲ顧ミズシテ、斯カル提唱ヲ敢テスル所以ノモノハ、實ニ愛國ノ至情止ミ難キモノアルガ爲ナリ。乞フ、幸ニ諒セラレテ、適宜御取捨アラムコトヲ。(昭和五年十二月五日稿)

附記

一、本稿ハ本來日本内地ヲ對稱トサルモノナルモ、其主旨ハ無論滿洲其他ノ植民地ニモ應用シ得ベク、就中「ロツテリー」ノ如キハ、既ニ彩票トシテ經驗アル事ナレバ、結核事業財源トシ、「ロツテリー」ヲ採用セラル、ノ可能性ハ一層多キヲ覺ユ。切ニ當局ノ御考慮ヲ乞フ。

二、普通ノ官公立病院又ハ私立療養所(或ハ病院)ニ委託スベシトナス一萬五千床ハ必ズシモ人口五萬以下ノ市町村ニ限ラズ、人工五萬以上ノ市ニ於テモ一部委託患者トナス事勿論差支ナク、本文ニ於テ之ヲ區別シテ記シタルハ唯計算ヲ簡易ナラシメン爲ニ過ギザリシモ、要ハ全國無料結核病床ノ總數ヲ先ヅ三萬トナシ其半數ヲ委託トナスベシトノ希望ナリ。

三、財源ニ對スル考案ハ此外猶多數ニ存スベシ、余ハ卓越セル名案ノ續々ト提唱セラレン事ヲ期待ス、要スルニ國民ガ從ラニ政府當局ノミニ依頼セズ、國民自身何等カノ犠牲ヲ甘ンジテ結核撲滅ノ實ヲ舉ゲントノ意氣ト努力ヲ示サン事ヲ要望スルモノナリ。

抄 録

結核専門雜誌

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose Bd. 74,

H. 5/6 1930.

1、結核菌ノ生物學的研究

一、生體ノ不定性—菌ノ解離

S. A. Petroff, Wm. Steenken und E. A. Schneider(Trudeau)

結核菌ノ不安定及ビ變動性ニ關スル從來ノ文獻ニハ個々ノ菌ノ形態ヲ觀察シタ記載ハアルガ培養ノ特性ヲ認メタモノハ稀テ殊ニ集落ノ特異性又ハソノ形ニ關スルモノハ一層少ナイ。著者等ノ研究デハ細菌學ノ最今ノ進歩タル細菌ノ解離ニ關スル觀方ヲ抗酸性菌ニ應用シ獨特ノ裝置ノ平板培養ニヨツテ抗酸性菌ノ解離ヲ行ツタ。解離(Dissoziation)ト云フ語ハ一ノ場合適當デハ無イガ暫ク用キルコト、スル。著者ハ集落ノ多様な抗酸性菌ノ特質ヲR及ビSノ文字デ現ハシタガ、然シRハ粗Sハ軟性ノ「コロニー」ヲ現ハストノ一般ノ習慣ニハ從ハナイテ前者Rハ周圍ニ對シテ抵抗力ガ強クテ毒力ノ比較的弱イ集落ヲ示シ、Sハ周圍カラ影響サレ易ク比較的毒力ノ強イモノヲ示スコト、シタ。種々ノ抗酸性菌ニ就テノ實驗ノ結果ヲ舉ゲルト、先ヅ鳥型菌ニ限ツテ「ゲンチアナ」紫加卵培地テ文字通りノ粗ト軟トノ集落ガ出來ル。無毒ノ集落ハ扁平テ幾分粗糙ニ見ヘ、有毒ノ集落ハ球狀ヲナシテ柔軟テアル。牛型菌ノ解離ハ單純ナ「ゲンチアナ」紫ノ卵培地テハ出來難イ、之レニ「ナトリウムタウロコロ

ル」ヲ加ヘルト可能テアル。人型菌テハ更ニ困難デアツタガ種々ノ培養基ヲ用ヒ二年ヲ費シテ二様ノ集落ヲ得タガ動物試驗ガ未ダ完成セヌ。B、C、Gカラハ二ツノ極端ニ異ツタ型ヲ分離シタ、勿論「コロニー」ノ形ハ單ニコノ二様ノミテハ無イガ取敢ヘズコノ著シイ二型ヲ舉ゲル、即チソノ一ハ動物ニ進行性病變ヲ惹起シテ死ニ到ランメ他ノ一ハ弱毒テ敏感ナ動物ニ對シテスラ全く無毒テアル。

結局解離現象ヲ起サシメル種々ナ條件ニ就テハ不明デアアルガ、著者ハ個々ノ菌ハ總テR及Sニナル可能性ヲ具備シテ居テ環境ガソノ一方ノ特質ヲ現ハスニ適スル時ハソノ方ノ集落ガ生ズルモノト想像スル、故ニ窮局ニ於テR又ハSノ何レノ菌ガ得ラル、カハ問題テハナイ、例ヘバ無毒ノ鳥型菌ノR「コロニー」ヲソノ最モ適スル卵培地ニ植ヘルト幾代カノ後ニS「コロニー」ニ變ズルノテアル。

(柴田抄)

2、動物試驗ニヨル結核病原體ノ濾過型證明

方法ノ實驗。並ニ「ツベルクリン」反應ニ

關スル實驗

O. Kirchner(Eppendorfer)

結核菌ノ濾過型ノ存否ガ論議セラレ殊ニ報告ガ區々デアアル原因ハ結核性及ビ結核菌含有材料ノ中ニアル濾過型ノ量ガ同一テ無イ點ニアルト思フ。著者ハ濾過型ハ恐ラク生キタ細胞ノ作用ニヨツテ容易ニ作ラル、モノデアロウトノ考カラ結核菌ト他ノ菌トノ共生培養ニ就テ特ニ系統的ニ研究シタガ實驗ノ結果ハ陰性デアツタ。

濾液ヲ注射シタ動物テ二三ノモノハ「ツベルクリン」反應ガ陽性ニ現ハレタ。然シ「チモテー」菌及ビ舊「ツベルクリン」テ長イ間前處置シタ動物又結核菌油

劑浸出物カラ菌體ヲ濾過シ去ツタモノテ處置シタ動物ハ規則的ニ位「ツベルクリン」ニ對シテ強イ皮内反應ヲ現ハス事ヲ認メタ。從ツテ特異性物質ヲ含有シテ居ル濾液ヲ注射シタ動物ニ「ツベルクリン」反應ガ陽性ニ出タトシテモ之レハ濾過型ノ感染ヲ證スルモノトハ云ヘヌ。一例「シヤムペラン」濾過管²テ濾過シタ濾液ヲ培養シ八日ニ菌ノ發育ヲ見タノテ更ニ濾過シタ、十四日後ソノ濾液ニ多量ノ沈澱ヲ生ジタ、コレニハ非抗酸性型ノ他少數ノ抗酸性型ヲ證明スル事ガ出來タ、コノ陽性例ハ過發的例外的ノモノテアル。(柴田抄)

3、結核症ノ研究

六、BCG豫防劑ノ經口の投與ガ猿ノ自

然的結核症ニ及ボス影響

Anno Nohlen (Düsseldorf)

- 一、七頭ノ Macacus rhesus 猿ニ經口的ニ人型結核菌(強毒)ヲ五廷ヲ二回與ヘタ。七頭共進行性結核症ヲ起シ、内六頭ハ確實ニ開放性トナツタ。
- 二、更ニ七頭ニBCGヲ五廻經口的ニ三回與ヘ、三十三日後、之レト人型菌ニ感染シテ居ル猿及ビ對照健康猿ト合セテ三頭ゾ、ヲ共棲サセタ。
- 三、コノ共棲試験ノ内五例ニハ短時日ノ長生以外ハBCGノ豫防接種ニヨル防禦力ヲ認ムル事ガ出來ナイ、他ノ一例ハ試験、對照獸共ニ罹患セズ、残り一例テハ明カニBCGノ防禦力ヲ認メタ。

- 四、BCGヲ前處置シタ動物ト對照トノ結核性病變ノ差異ハ一律テナイ。
- 五、BCGノ經口的投與ニヨル障碍ハ何レノ猿テモ見ラレナカッタ。

(柴田抄)

4、實驗的結核及ビ肺結核ニ於ケル含水炭

素代謝

實驗的結核(兔、「モルモン」)及ビ廢汎ナ増殖結節性及ビ滲出乾酪性肺結核症テハ含水炭素代謝ハ低下スル、之ハ主トシテ肝及ビ副腎系統ノ機能障礙ニヨルモノテアル。肺結核患者ノ含水炭素代謝ノ低下ハ若シ患者ガ糖尿病ヲ合併シテ居ルトソノ新陳代謝ニ影響シテ來ル、肺結核症ノ代謝機能狀態カラ推セバ「インシュリン」ヲ治療ニ使用スルハ合理的ダト云ヒ得ルト。(柴田抄)

I. E. Rabuchin (Charkow)

5、肺結核ニ於ケル末梢性及ビ病竈周圍性

血液像ノ研究續報

T. Sternberg (Nieder-Osterreich)

Brinige Bd. t. H. 著者ハビルケ氏反應ヲ行ツタ局所ノ周圍ノ血液ヲ検査スルノハ結核性病變ノ豫後ニ關係ノアル病竈ニ起ル血液ノ變化ヲ早ク知ル事ノ出來ル簡單ナ良法ナル事ヲ發表シ、之ヲ病竈周圍血液検査ト名付ケタ。其後第二ノ研究ニヨツテ、療法ガの中シタ場合治癒ノ徵候ハ病竈ニ於テ早期ニ且明瞭ニ現ハレル、從ツテ著者ノ方法ヲ以テ治療ノ效果ヲ檢スル事ガ出來ルトノ結論ニ達シタ。尙觀察ヲ續行シタナラバ生物學、生理學的現象ニ新ラシイ説明ガ附ケラル、ニ到ルテアロウ。(柴田抄)

6、稀薄液狀「ヨチピン」ノ結核診斷上ノ意義

H. Klesattel (Sommerfeld)

粘稠度ノ大キナ「ヨード」油ハ氣管枝ノ造影ニハ適當デアアルガ微細ナ間隙ヲ充シ又ハ通過サセ様ト思フ時ニハ甚ダ使ヒ難イ缺點ガアル。薄液狀ノ四〇%「ヨチピン」(「メルク」)ハ結核性ノ痰管ヤ膿瘍ヲ線ヲ現ハスニ理想的ノ造影劑デアツテ一般ノ瘰孔性結核症テ定性診斷ノ完全ヲ期スル上ニ推奨サルベキモノテアル。(柴田抄)

7、側面及ビ軸線照射ニヨル肺尖野ノ

「レントゲン」検査

Theodor Bárony u. Ernst Koppenstein (Budapest)

著者ハ肺尖ヲ側面カラ及ビ體軸線(尾頭線)カラ照射スル方法ヲ案出シテ肺尖野ヲ三ノ主要射線ヲ映出スル手技ヲ完成シタ、コノ方法ハ從來不可能デアツタ處ノ肺尖野ニアル肺臟肋膜ノ變化ノ正確ナ位置ヲ知ル上ニ大ナル意味ガアル。

(柴田抄)

8、初期浸潤ノ經過ノ一例

J. Weickel (Leipzig)

二十三歳ノ女、開放性結核患者デアル妹カラノ外因性二次感染ニヨツテ鎖骨下ニ浸潤ヲ生ジタ、コノ浸潤ハ二ヶ月後全ク消散、健康ニ復シテ農業ニ従事シテ居タガ一ヶ年後感冒カラ急ニ新傳播ヲ起シ重篤ナ肺結核症トナツタ一例

(柴田抄)

9、結核再感染及ビ之ト「アレルギー」及

免疫トノ關係

Ernst Augst-Schneider (Trudeau)

家兎ノ角膜ニ種々ノ抗酸性菌(BCG、人型結核菌、冷血動物結核菌、「チモテ」菌)ノ微量ヲ注入シ、初メ進行性病變ガ消退シタ後(二三日—四八五日)第二次ノ感染ヲ角膜ニ施シ、ヨツテ起ル症狀ヲ檢シタ。コノ實驗ニヨルト治愈シタ病竈部位ハ長時間ノ間特異性及ビ非特異性「アレルギー」ヲ保有シテ居ルラシイ。然シテコノ所見ハ成年期肺癆ノ發生ヤ結核豫防接種ノ批判ニ關シテ意義ヲモツモノデアアル。

(柴田抄)

抄 録

10、人工氣胸ハ學齡及ビ思春期ノ開放性

結核症ノ豫後ヲ好轉セシメ得ルカ?

Hans Heinrich Knüsch

Schliess 小兒療養所テ一九一六—一九二七年ノ間ニ治療シタ五十四例ニ就テノ報告デアアル、氣胸ニ依ツテ長ク生キタ者ハ五九・三%、内四ヶ年以上長生ノモノ三四・六%。死亡ノ多數ハ二年乃至四年以内テ四年以上生延ビタモノハ續イテ健康ガ保持ル希望ガアル。豫後ハ思春期ニ入ツタ者ヨリ十二歳迄ガ非常ニヨロシイ、男兒ト女兒トテハ同様デアアル。多數ノモノハ左側ニ氣胸ヲ行ツタ。最初カラ或側ガ侵サル、事ガ多イトハ想像サレヌ、從テ右側ノ傳播ガ多數ト云フ事ハ上ノ事實カラ否定サレル。最モ良好ナル病型ハ孤在性ノ上肺野浸潤ト空洞トデアアル。早期ニ發見シ早ク氣胸療法ヲ行フ事ガ肝要デアアル、之ガ行ヘレバ小兒ニ對スル氣胸ノ永續的効果ニ就テノ多少ノ悲觀說ハ校正セラレテ健全ナ樂觀說ガ之レニ代ルニ相違ナイ。

(柴田抄)

11、肺結核症ノ充墳療法ノ適應ト症例

N. Röth (Budapest)

充墳材料ハ Baer 氏ノ用ヒタモノ、即チ溶融點四八—五二度ノ「パラフィン」ニ Vioform 一%、炭酸蒼鉛〇・五—一・〇%含有シタモノヲ使用シタ、適應症ハ、一、上葉ニ限局シタル増殖性萎縮性結核テ小空洞ヲ有シ、癒著ノ爲ニ氣胸テ壓縮スル事ノ出來ヌモノ、二、大キクテ硬固ナ或ハ固定サレタ肺尖空洞ガアツテ他ハ萎縮性眞性ノモノ、三、胸廓整形術テ個々ノ空洞ヲ壓縮スル事ガ不可能ナ時補足ノ意味テ行フ、四、肺尖空洞カラ起ツタ出血ノ場合デアアル。著者ノ治療例ハ一—テ内、無熱、喀痰微量、空洞壓縮、體重增加、無菌ノ成績ヲ得タモノ四例、著明ニ良好トナツタモノ三例、長クナツタ事ハ疑無イガ

六三

充分ニ壓縮ノ出來ナカツタモノ及ビ他部ノ病變ノ爲ニ結果ノ面白クナイモノ
三例、觀察期間ノ短カキモノ一例テアル。(柴田抄)

12、炭療法ノ研究一、結核患者ニ於ケル

血液ノ變化

R. Gross und J. Wadel (Wien)

結核症殊ニ肺結核症ノ治療ニ炭ノ粉末ヲ用フル理由ハ炭坑夫ニ肺結核患者ガ
比較ノ少數テアル事ノ外病理解剖テ治療シ又ハ治療傾向ニアル纖維性癆痕ニ
著シイ炭ノ沈著ヲ屢ク認メル事等ニアル。微細ナ炭末ノ少量(C-Suspension
Merk. No. 1+1-1 (2 珪))ヲ靜脈内ニ注射スルト健康者テハ血液ノ質的變化淋
巴球及ビ單核細胞ノ持續的增加ガ起ル、結核患者テモ著明ナ變化ガアリ、然
モ炭末注射後臨牀經過ノ良好ナ時ニハ常ニ上記ノ如キ血液像ノ變化ヲ見ル
テアル。一般ニ初量トシテハ1-4 珪ガ適當テアル、注射間隔ハ一〇—一四日
トシタ、炭ノ注射ノ效果ハ先ヅ網狀内皮細胞組織ニ對スル一急性ノ適度ナ
刺激ソノ作用タル血液中淋巴球及ビ單核細胞ノ出現ニヨツテ説明セラレル
。(柴田抄)

13、Lopion ニヨル肺結核症ノ治療ニ就テ

Thieble (Hamburg)

Lopion ハ造糖作ラ無害テアルトハ云ハルニ、著者ハ此ノ藥劑テ甚ダ屢々永續
スル熱發性反應ヲ起スノヲ見タ、コレハ Fischer ガ金製劑テ毒性ノ強サノ順
位ヲ Triphal, Sanocrysin, Solgonal, Lopion ト列擧シタソノ最強毒ナル Tri-
phal ニヨツテモ未ダ經驗シナイ程度ノモノテアル。コレノ Lopion ト Triphal
トノ比較治療試験ニハ同様ノ適應性ヲ選ンダ、尙ホ又 Lopion テ好クナツタ
モノガ Lopion ノ使用テ惡化シタ例サヘアル。

Lopion 治療テハ腎臟ノ故障ハ少シモ起ラズ又皮膚、肋膜滲出、膿胸ニハ何
等ノ變化ヲ來サヌ。特ニ注意スベキハ喉頭結核ノ場合テ Unverzagt ノ如キ
ハ「ロビオン」ヲ喉頭結核症ニ推奨シテ居ルケレドモ著者ノ例テハ使用中既ニ
甚ダ嫌思スベキ反應ガ起リ、良クナツタモノハ一例モ無イ、又嗜血傾向アル
モノモ注意ヲ要スル、今日迄ノ經驗テハ矢張り「トリファール」ノ方ヲ採リタ
イ。(柴田抄)

14、青年期結核患者ニ對スル Ferronovin

ノ投與

H. Hennes.

Promonta 化學工場ヨリ發賣サレタ Ferronovin ハ製造者ノニフ處ニヨレバ
幼弱動物ノ肝臟ヨリ製シ之ニ「ヴィタミン」D 及ビ「シテラック」ヲ添加シタル
モノナル由、著者ハ二十八名ノ若キ結核患者ニ之レヲ投與シ血液像榮養ソノ
他ニ良好ナル治效ヲ認メタ。(柴田抄)

15、ベスレドカ「アンチゲン」ノ臨牀的使用

ニ關スル豫報

N. Westenrijk

ベスレドカ氏「アンチゲン」ヲ用ビタ治療實驗ヲ報告スル。用量ニ注意シテ、
皮内又ハ皮下ニ注射スル時ハ最初ハヨク堪ヘ多數テハ經過ニ良イ影響ヲ與ヘ
タ。注射後五—六週ノ後注射部ニ規則的ニ無菌性ノ化膿ヲ生ズル、コレ「アン
チゲン」ノ效果ハ恰モ「アルト、ツベルクリン」ニ類似シテ居ル。今後コレノ菌
浮游液「アンチゲン」ヲ用フルニハ局所ノ化膿ヲ避ケル爲使用方方法ヲ改良セテ
バナラナイ。(柴田抄)

16、酸素吸入ノ氣胸瓦斯ノ成分ニ及ボス影

響第一報

E. Brieger und H. Müller

氣胸瓦斯ノ成分ハ肋膜ガ健康ナラバ送入シタ瓦斯ニハ無關係ニ一定時間後ニハ一定ノ比ノモノトナル事ハ近頃ノ研究テ確メラレタ、然シソノ理由ハ未ダ充分ニハ説明サレテ居ラス。氣胸ト肺ノ氣嚢内ノ瓦斯ノ間ニ交換ガ行ハレルノテハ無イカトノ考ハ必ズシモ不當デナイ。著者ハ家兎ニ氣胸ヲ施シタ後直チニ酸素ヲ吸入サセソノ氣胸瓦斯ニ及ボス影響ヲ檢シタ、實驗ノ結果ニヨレバ數時間(例ヘバ二十四時間)後ニハ氣胸瓦斯ノ酸素量ハ吸氣ノソレト殆ド同様ニナル。既ニ之レダケテモ氣嚢瓦斯ト氣胸トノ瓦斯代謝ハ單ニ血行ニヨルノミテハ無イ事ガ完全ニ分ル譯デアルト。(柴田抄)

17、結核性肋膜滲出液及ピソノ他ノ胸腔滲出液ノ化學的組成ニ就テ

F. Reiche

著者ハ種々ノ肋膜滲出液即チ結核性、結核疑似性、肺炎性、ロイマチス性、肺炎球菌以外ニヨル膿胸、肺及ビ肋膜癌、心臟疾患ニヨル肋膜腔發汗等ノ五十九ノ材料ニ就キ化學的定量分析ヲ行ヒ同時ニ各例ノ血液ニ就テモ試験シタ。ソノ結果ハ化學、生理病理學上重要ナル基礎的事項ヲ獲タケレドモ直接ニ臨牀診斷ノ用ニ供スベキ條項ヲ含マナイ。(柴田抄)

18、結核症ニ於ケル脫毛ト「ビヨレステリン」

Gert Zimmermann

脫毛ハ肺結核患者殊ニ妙齡ノ女性患者カラ屢々訴ヘラレル不快ナ症狀デアリ。ビヨレステリンヲ酒精ニ溶解シタ藥劑「Tilysin」ハ健康者テ脫毛及ビ脂漏アルモノニ有效ダトノ報告ガアル。結核患者テハ「ビヨレステリン」代謝ノ

變調アル事ハ通則トサレテ居ルノデ「ビヨレステリン」劑ヲ結核患者ノ脫毛ノ治療ニ用フルノハ合理的デアルトノ考カラ之レヲ試用シタ。實驗例ハ八六例デ、結果ハ不變三・四九%、稍々良好九・三%良及ビ著シク良八七・〇%ト云フ意外ノ好成績ヲ見タ。コレテ肺結核症ノ或ル型ノモノニ起ル脫毛ニ「Tilysin」ガ效ク事ハ疑フ容レス、追試ヲ希望ス。(柴田抄)

19、外傷ト骨結核症トノ間ニハ關係アリヤ?

K. Schuberth und Virma Mayer-Weber

外傷ト骨結核トニ關係アリヤトノ問題ノ解決ハ醫學上ノミナラズ社會上ヨリモ要望セラレテ居ル。著者ハ Stolte 日光療養所テ三〇〇例ニ就キ調査シタ。十五歳以下ノモノ一〇〇例ハ既往歴不明ノ爲除外シ二〇〇例テ見ルト、既往ニ外傷ヲ受ケタモノハ四七%アル、然シ外傷カラ骨結核發病迄ノ間隔ノ短カキモノ及局所ガ一致スルモノヲ探ルト約一%迄減少スル。外傷ニ關聯シテ骨結核ノ起リ得ル條件ハ一、潜伏シテ居タ骨病竈ガ外傷ニヨツテ顯著トナルコト、二、外傷ニヨツテ組織ヲ損傷シタ弱抵抗部ニ結核菌ノ血管性轉移ガ起ル事、三、開口性創傷ガ外カラ結核菌ニ感染スル事ノ三ツヲ擧ゲ得ル、ソノ内一ト二トニハ兩者ノ關係ハ甚ダ不確實デアアル三ハ疑問ノ餘地ハ無イガ著者ハ斯ノ如キモノハ一例ヲモ見ナイ。(柴田抄)

20、臟器疾患ニ續發シタ Renten-Neurose

縱隔膜及ビ氣管周圍リン巴腺結核ノ症

候ニ關スル症例

Rudolf Menzel

戰時結核患者ノ一人テ概シテ鎮靜狀態ニアツタモノガ縱隔膜及ビ副氣管枝淋巴腺ノ再燃ヲ起シ氣道ノ機械的阻害ニヨル劇シイ呼吸障礙ヲ之レニ起シテ來

々。治療ニヨツテコノ淋巴腺ノ疾患ハ輕微ナ瘰癧ヲ殘シテ治癒シタガ症候ハ臟器的ノモノヨリ、年金要望ニヨツテ起サレタ Neurose ニ移行シ時ト共ニ増強シタ、コノ Neurose ニ對シテハ臨牀的治療法ハ患者ノ消極的抵抗ノ爲ニ全然無効デアツタ。結局臟器疾患ノ治癒シタ後初メ定メテアツタ傷病年金額ヲ急ニ低下シタ處患者ハ就業シ得ル様ニナツタ。(柴田抄)

Zeitschrift für Tuberkulose, Bd. 55, H. 4, 1930.

21、早期浸潤ノ形態學及成因ニ就テ

H. Kudlich u. F. Reimann (Prag)

十九歳ノ青年ニシテジャクソン氏癩癧ニ罹患シ、之レニ引續キテ半年内ニ咳嗽ヲ以テ起レル右上肺野ノ早期浸潤患者ガ癩癧治療ノ目的ヲ以テ行ハレタル腦手術ノ結果死亡セル一剖檢報告ナリ。腦ニ孤在性結核ヲ證明セリ。癩癧發作以後凡九ヶ月ノ經過ヲ示セリ。剖檢上右肺上葉ノ中及下三分一ノ側半部ヲ占ムル結核症ニシテ、細葉性滲出性病竈ノ集合セルモノナリ。此病竈ノ内方ニ向ヘル部分ニハ細葉性結節性ノ部分アルモ其他ハ全ク滲出性ニシテ乾酪化傾向多ク、結締織増殖ヲ示サズ。周局炎著明ナリ。是等ハ完全ナル融合ヲ來サズシテ所々ニ氣腫狀ニ膨大セル肺胞介在セリ。兩肺此病竈以外ニハ空洞其他ノ活動性或ハ陳舊ナル結核竈ヲ發見シ得ズ。但シ完全ニ治癒シ石灰化セル止針頭大ノ初感染竈ヲ左下葉ニ發見シ、其局所淋巴腺ニ同様ニ治癒セル初期變化群淋巴腺竈存在セリ。種々ナル感染経路ノ可能性ヲ考察セル結果、此早期浸潤ハ外來性氣管枝性再感染ナリトナシ、斯ル再感染竈ガ滲出性ナル點ニ於テロエシケ及クレフ兩氏ノ説ニ賛同セルモ肺炎竈ヲ缺ク點ニ於テ兩氏ノ説

ト異ル所アリ。又早期浸潤ガ再感染ナル點ニ於テハレデカー氏ノ説ニ一致ストナセリ。(岡抄)

22、同一家兔ノ皮内接種ニ依ル結核菌株ノ病原性ノ比較検査

Tadao Toda (Berlin)

結核菌ノ人型ト牛型トヲ判別スル方法トシテ、少量ヲ皮内ニ接種シ、其病變ヲ比較觀察セルモノニシテ、B. Lange 教授ノ下ニ行ハレタル業績ナリ。著者ハ此方法ヲ皮内四肢法 (Intrakutan-vierschenkel-methode) ト稱ス。家兔ノ四肢ヲ用ヒ、前肢ハ肘掌間、後肢ハ膝足間ヲ選ビ。菌浮游液ヲ調製後直チニ千分一乃至一萬分一稀ヲ皮内ニ接種ス。其局所淋巴腺ノ病變ヲ觀察ス。一方ニハ既知毒力ノ牛型菌ヲ同様ニ接種ス。人型菌ナルトキハ三十乃至四十日ニシテ病變最高ニ達シ。六十乃至七十日ニシテ治癒ス。牛型菌ナルトキハ九十乃至百日ニ及ブモ病勢減退セズ。故ニ大體ハ四乃至六週ニシテ知り。九十日後剖檢ニヨリテ之レヲ定ム。著者ノ實驗ニヨレバ腹又ハ胸壁ノ接種ハ淋巴流ノ關係ニヨリテ必シモ可良ナル成績ヲ得ズ。此方法ハ從來ノ皮下又ハ血管内接種方法ニ比シテ遙カニ優秀ニシテ、且ツ同一動物ニ對照ヲ用フルガ故ニ個體ノ抵抗差ヲ除外シ得。又同時ニ接種サレタル強力株ノ病變ガ弱力種ノ病變ニ影響ヲ及ボス現象無シ。不慮ノ事故ニ備フル爲メ家兔ハ常ニ二頭宛使用セリ。(岡抄)

23、肺結核症ノゲルソン—ザウエルブルフ

氏食餌療法補遺

F. Spies (L. V. A. Reimprovinz)

三五名ノ患者ニ就テ平均八、五月表題ノ療法ヲ行ヘシ成績ニシテ體重増加ヨ

リ見ルモ、治療効果ヨリ見ルモ、其煩雜ニシテ施行至難ナル點ヲ考フレバ、其利益ヲ見出シ難シ。全體トシテ否定セリ。
(岡抄)

24、ゲルソン—ヘルマンズドルフェル氏食餌ノ有效要約ト其應用ニ對スル注意

K. Henius

狼瘡及外科的結核病ニ表題ノ食餌が效アルコトハ一般ニ認メラレタルトコロナルモ、其有效要約ニ關シテ一定説ナシ。ヘルマンズドルフェルハ此食餌が酸性ナルが爲ナリトセルモストラウプ氏等ハ之ニヨリテ體液ヲ酸性方向ニ傾ケ得ズトナセリ。著者ハ本食餌ノ有效要約ヲ食鹽ノ缺乏ト「ビタミン」豊富トニ歸セリ。而シテ本法ヲ應用スルニ當リテハ此二點ニ注意セバ必シモ嚴格ナル必要ナントナセリ。
(岡抄)

25、反射光線ヲ以テセル喉頭結核症ノ喉頭内照射ノ術式ニ就テ

K. Riemer (Almfrieden)

反射光線ヲ以テ喉頭内ヲ照射スル方法ハ一九二五年 Koliner 氏が行ヘルトコロナルモ、硝子鏡ヲ用ヒタル爲メ光線ノ吸收サル、コト多ク、爲メニ利用サル、ニ至ラザリキ。著者ハ金屬鏡ヲ用ヒ人工太陽燈ヨリ直接ニ之レニ反射セシメ、患者自ラ喉頭鏡ヲ用ヒテ行フ装置ヲ案出シ目下之レヲ施行中ナリ。其成績ヲ示ス程ノ時日ヲ經過セザルモ一般ニ可長ナリトナセリ。
(岡抄)

26、全菌數ノ測定法。喀痰内結核菌ノ定量

Egon Butschowitz (Bokau b. Aussig)

計量セル喀痰ニ加里定規液(二珪)ヲ加ヘ、之レニ「バク」製造用酵母ノ一定浮

抄 録

游液ヲ加ヘ、定規硫酸液ニテ中和シ、塗沫標本ヲ作製シ、チール氏染色ヲ行ヒテ三〇—五〇視野ノ菌ヲ數フ。別ニ酵母浮游液内ノ酵母數ヲ血球計算器ヲ使用シテ計測シ、菌數 = $bz \cdot H/F \cdot h$ (bz : 50 視野ニ見出サレタル結核菌數) (h : 同視野内ノ酵母數) (H : 浮游液一定量内ノ酵母數) (F : 珪ク減)。ナル算式ニヨリテ計算シ得トセリ
(岡抄)

27、醱酵「ツベルクリン」應用ニ關スル一般的觀察

Alexander Konus (Athen)

醱酵「ツベルクリン」ニ關シテ著者ハ曩ニ Beitr. Kl. Tb., Bd. 70, H. 6 ニ發表セリ。之レヲ患者ニ應用セル結果ヲ報告セルモノニシテ理學的症狀、臨牀的一般症候。「レントゲン」検査。検査室所見等ニ分チテ記載セリ。其語ルトコロニ從ヘバ外的可長トナリ、體重増加シ、咳嗽ハ翌日増加スルモ、數日ニシテ頓ニ減少又ハ消失シ、咳嗽、咯血、呼吸困難、熱等ヲ消褪ス。何等ノ害ナシ。著者ハ其作用ニ關シ、本劑ヲ注射スル時ハ結核菌ハ融合シ、軟化融解シテ排出サル、故ニ閉性ナルモノハ閉性トナリテ後治愈ス。本劑ハ始メ肺實質ニ作用シ、後結締組織増殖ヲ來スモノナリトナシ。粟粒結核症ニモ效アリトセリ。軟化融解ノ危險、閉性ヲ開性トナスノ冒險ニ就テ著者ハ何等ノ考慮ヲ拂ハズ。其ノ成績ノ餘リニ效果的ナルヨリ見テ尙ホ將來多難ナル可シト考ヘラル、療法ナル可シ
(岡抄)

The American Review of Tuberculosis,

Vol. XXII, No. 3, 1930.

28、Streptothricosis (分岐菌症)

六七

J. J. Singer & Harry C. Ballou

分岐菌ハ身體ノ各臟器ニ相當廣ク來リ結核ニ類似セルタメ夫ト間違ヘラレル事ガアル。著者ハ三十二歳ノ男性ニシテ本症ニ罹リタルモノ、臨牀上所見ヲ詳述シ且ツ其解剖所見ヲ詳記シテ次ノ如ク總括セリ。

(一)本例ハ恐ラク肺ヨリ原發シタルモノニシテ臨牀的ニハ分岐菌ヲ膿喀痰及ビ淺在性膿瘍ヨリ及剖檢上ニハ身體各臟器ヨリ之ヲ證明セリ。(二)本例ハ發熱。可ナリノ白血球增多症各ビ各臟器ニ起因セル症狀ヲ呈ス。即チ最初ハ腎炎最後ニ骨折又ハ肺、肋骨及ビ胸壁ノ廣範ナル附加症ヲ有ス。全經過ヲ通ジテ頑症ニシテ紫斑ノミハ説明スルコト能ハザリキ。(三)本例ハ沃度加里ヲ以テ治療シ經口的ニ中毒症狀ノ表ハル、迄大量ニ投與セリ。又「リビヨドール」ヲ數回吸入セシム。胸壁ノ膿瘍ハ切開シ後誘導ヲナス。(四)肺中ノ病竈ハ肺結核ヲ合併シ膿瘍ヨリ生ジタル空洞ヨリハ直接ニ結核菌ヲ證明セリ。但シ生存中ハ喀痰中ニ結核菌ヲ證明セザリキ。文獻ニ見ルニ「グラム」陽性ニシテ非抗酸性嫌氣性分岐菌ガ肺結核患者ノ喀痰中ニ證明セラレタルハ一例アルノミ。海狸ニ對シテハ病原ヲナス事ガ分岐菌ノ大切ナル要件ナリト考ヘラル。(五)肺内ノ病竈ハ壞疽ト膿瘍形成及ビ特有ナル結節形成ヲ示セリ。増生變化ガ少シアリ氣管枝擴張ハ僅カ又ハ判然タラズ。(六)本例ノ分岐菌ノ性質及ビ其培養特質ヲ研究シタルヲ以テ他日報告スベシ。(寺尾抄)

29、肺ノ原發性絲狀菌症

Leo v. Schneider

人類ニ絲狀菌感染ヲ起シタル場合ニ前驅症トシテ現ハレル症狀ハ脱力、食慾不振、盜汗、及ビ輕度ノ日晡潮熱ヲ呈スル。多クノ例ニテハ泡立テル喀痰多量ニテ膿様喀痰(時々血痰)及ビ屢々咯血ヲ呈スル。他覺的症狀トシテ患者ハム

シロ健康ナル相貌ヲ有ス。肺ノ原發性絲狀菌症ハ羸瘦セズ。長年侵サル、モ然リ。要スルニ(一)Aspergillus fumigatusハ纖維性結核症ニ類似シタル肺竈ヲ惹起スル微生物ナリ。(二)臨牀的所見ヤX線所見ハ慢性肺結核症ノソレト同様ニシテ從ツテ見逃ガサレヤスシ。(三)絲狀菌感染ガアル呼吸器疾患(肺結核症)ニ二次的ニ來ル場合ニハ其鑑別ハ殊ニ困難ナリ。(四)絲狀菌感染ハ鳩、鸚鵡及ビ毛髮ヨリ脱脂スル爲ニらい麥粉ヲ使用スル梳手ヨリ移ルタメニ職業ニ就テ注意深キ病歴ヲトル事ガ肝要ニシテ之ニヨリ正シキ診斷ヲ下シ得ル場合アリ。(五)動物ニAspergillus fumigatusノ芽胞ヲ注射セバ定型的結核様病竈ヲ生ゼリ。(六)絲狀菌症ハ結核症ト同様ナル局所反應ヲ呈スルガ故ニ「ツベルクリン」ノ診斷價値ハナシ。(七)沃度劑ハ絲狀菌ノ生存及ビ發育ニ對シテハ特ニ阻止的ニ作用スルガ如ク見ユ。(寺尾抄)

30、結核症及癌

W. C. Hueper

著者ハ結核症ト癌トノ相互關係ノ存在ニ就テ過去約一世紀ニ亙リ諸説紛々タルニ鑑ミ其間ノ文獻ヲ涉漁シテ之ヲ(イ)癌ハ結核症ヲ誘發ス(ロ)結核症ハ癌ヲ誘發ス(ハ)結核症ト癌トハ拮抗ス(ニ)結核症ト癌間ニ相互關係ナシノ四項目ニ分チ總括トシテ次ノ如ク述ブ。

抗酸性非病原性菌ガ肺ノ壞疽性空洞内ニ時々發見サレテ之ガ癌ト結核トノ相互關係ヲ云々サル、原因トナル。リップフェルガ癌組織ガ結核菌發生ニ好機ヲ與フルト主張スルモ實ハ何等ノ事實ニ基イテ居ナイ。癌ト結核ガ共存スルハ比較的稀テアル。ウイルヒョウガ腫瘍性惡液質ガ結核感染ニ對シテ身體ノ抵抗力ヲ減ズルト云ヒシハ非特異性ニヨルモノニシテ二次的結核ノ發生ニ特異性影響ヲ與フルモノニ非ズ。無力性ノ者ニハ體質的抗増生要素ガアルト云フ

事ハ想像ニ過ギズシテ他ノ體質的故障ニ就テハ既ニ或明白ナル事由ガ存スル。フオルランドハ精神病者二千ノ剖檢ニヨリ癌死亡率ハ同地方ノ一般人ノ夫ヨリハ遙ニ少ク七・八％對三・八％ヲ更ニ癩癩患者千六百屍中五四〇ヲ剖檢シ内五七五ハ四十歳以上ニシテ癌死亡率ハ一・一％ニ過ギザルモ一般人ノ同齡ノ夫ハ一〇・六乃至一二・七％ナリト云フ。彼ニヨレバ癩癩患者ハ屢々退行性「スチグマタ」ヲ有シ胸腺淋巴體質ヲ有スト。又血管組織ノ増生低下及ビ植物性「スチグマタ」ヲ呈スルノヲ屢々見シ等ガ抗増生作用アリト考ヘラレタ點ナリト。彼ノ觀察スルトコロニヨレバ癌ノ起ル前ニハ屢々癩癩發作ガ減ズルト云フ。他方ヨリ考フル時ハ結核感染ニ次テ二次的身體反應ガ抗増生の影響ヲ及ボス明白ナル事實アリ。即チ癌ト結核患者ノ血中「コレステロール」含量ニ相違ガアツテ之ガ其影響ニ關與スルモノト考ヘラル。之ハ急性結核者ニテハ低ク身體抵抗力ノ増進ト共ニ昂マレドモ癌患者ニテハ反對ニ高クシテ輕快スル時ハ降下スルモノナリ。類症鑑別的ニ考フレバ癌ガアツテ其部位淋巴腺ガ結核ナル場合ニ癌轉移ト誤認サル、コトアリ。肉眼的ニ兩者ヲ鑑別スルコトハ困難ナリ。殊ニ肺中ノ原發性多發性小結節ガ癌ナル時ハ小葉性結節性結核ニ酷似シ又頸部器官ノ結節性癌ト結核トモ酷似セリ。肉腫ノ或型ト結核性「グラヌローマ」トノ顯微鏡的鑑別モ必ズシモ容易ナラズ、且ツ屢々不可能ノ事アリ。

更ニ右ヲ次ノ如ク結論セリ。(一)急性結核癌ト癌トノ間ノ拮抗作用ハ多クノ信憑シ得ベキ實驗的及ビ統計的事實ニヨリ支持サレ本問題ノ他ノ著想ヨリモ更ニ明白ナルモノアリ。(二)コノ現象ノ原因的機構ニ關シテハ決定的ニ結論スベキ信憑シ得ル材料ナシ。何トナレバ惡性腫瘍ノ成育ニ對スル結核ノ一次の體質的、二次的反應性且ツ二次的機構的要素ノ影響ニ關シ信憑シ得ベキ

又廣範ナル發見ガ未ダ存在セザルナリ。(三)、癌細胞ニ對スル結核菌ノ直接菌毒素性作用ガ不可能ノ様ニ考ヘラル。(四)、コノ拮抗作用ノ原因ヲナン又ハ之ニ多少貢獻シ相ニ見ユル上述ノ各要素ノ決定及ビ鑑別ニ對シテハ今後大ニ努力スベキテアル。

(寺尾抄)

31、物理的診斷ニ對スル解剖的變化ノ關係

一、肺奇葉ニヨリ起ル物理的徵候

Gulden Mackmull

著者ハ右肺炎ニ奇葉アル患者ノ臨牀的所見及ビ解剖所見ヲ詳述シタリ。即チ右肺炎ハ前後共濁音ヲ呈シテ水泡音ヲ聽キ無熱ナレドモ體重減少ヲ來シ肺結核ト誤診サレタルモノナリ。コノ徵候ハ右肺炎ニ奇葉アリソノ上ヲ奇靜脈ガ經絡シタル場合ニ起ルモノニシテ靜脈ノ血量ガ異常ニ増加シタル時ハ濁音ガ増シ血量ガ正常トナリ又ハ固有ノ肺呼吸ニ干渉サレテ囉音ヲ發スルモノナリ。奇葉ノ發生ニハ胎生學的要素ガアルラシイ。

(寺尾抄)

32、選擇氣胸ノ進歩シタル術式

Jacob W. Cutler

氣胸治療肺ノ健康部ノ擴張能力ヲ充分ニ利用スルタメニ「マンメーター」及ビ透視ニヨリ後充填ノ量ト頻度ニ充分ニ注意シ健康部ガ約四割方ニ虚脱シテモ肋膜腔陰壓ガ〇又ハ-1(水柱)ヲ常ニ保ツ様企圖スベシ。カクノ如キ壓ニ於テハ深吸氣時ニ胸壁ガ一寸半以内ダケ擴張スル程度ニ健康部ニ空氣ガ流入スル。肋膜内壓ガ過大ナル時ハ健部ノ擴張ヲ妨ゲラレ過小ナル時ハ其擴張ハ大トナリ胸壁ニ癒著セシムルコト、ナル。故ニ著者ハ透視ヲ屢々行ヒ且ツ壓ニ注意シツ、(一)最初ノ送氣ハ胸廓ノ大サ及ビ瓦斯ノ入り具合ニヨリテ二〇〇乃至四〇〇託(二)、三日後ニ第二回送氣ヲ行ヒ五〇〇託ヲ超エズ(三)更ニ三日ヲ

經テ第三回送氣ヲ行ヒ五〇〇珉ヲ入ル。(四)以後毎週五〇〇珉ヲ入レ常ニ陰壓ヲ保タシメ若陽壓トナリタル時ハ減量シテ一〇—一四日ニ送氣ス。カクセバ普通六乃至九週ニシテ完全ナル撰擇虛脫ヲ起スニ至ル。即本法ノ進歩シタル點ハ呼吸ニヨリ障碍ヲ最少ニシ循環障碍ヲ避ケテ反側肺ノ負擔ヲ減ジ兩肺ガ侵サレタル時ハ兩側氣胸ノ施行ヲ可能ナラシム。更ニ又治療肺ノ健康部ノ擴張機能ヲ利用シテ咳、疾走、登階等ニ際シ罹患部位ヲ安全ナラシム。又コノ期間ニ填充サレタル瓦斯ハ健部ヨリ病部ニ壓出サレ健部ハ膨脹シ病部ハ更ニ硬化シテ治療益々促進サル、ニ至ル。(寺尾抄)

33、結核症ニ於ケル心臟ノ「エレクトロカ

デオグラム」及「レントゲン」像研究

Frances W. King & Olga S. Hansen

(1) Glen Lake Sanatorium ノ患者百名ニ就テ結核型ヲ撰擇セズニ其「エレクトロカデオグラム」及X線寫眞ヲ研究シ後ニ肺虛脫研究ヲナス基礎トセリ。(2)、心臟ノ徑ハ Groedel ヤ Norris & Landis ノ報告ノ如ク本例ニ於テモ正常人ノヨリハ小テアツタ。(3)、本例ニ於テ心臟ノ平均重量ハ他ノ觀察者ト同様非結核性ニ於ケルヨリ全體トシテ輕イ。(4)、之群ノ略三分之一ハ心臟胸廓指數ハ四〇%以下テ正常人ノハ五分之一(二一%)デアル。(五)、略、

34、肺虚脱ノ「エレクトロカデオグラム」

ニ及ボス影響

Olga S. Hansen & Frances W. King.

六六名ノ患者中七三回ノ肺虚脱療法(氣胸、横隔膜神經擦除、胸廓形成術)ヲ受ケタル患者ノ虚脱前後ノ「エレクトロカデオグラム」ヲ研究シタルニ其振

幅ハ一般ニ變化シR波變形ハ全例ノ九六%ニ起リタリ。サレド變化ノ型及ビ度合ハ一定セズ。又心臟ノ位置ノ變化ノタメニ起ルラシク考ヘラル、モノ、多クハ肋膜及ビ縱隔膜癒著ニヨリ影響サレ之ハ心筋性要素ヨリハ多イ。(寺尾抄)

結核専門外雜誌

35、初發肺結核ノ診斷ニ就キテ

Dr. Hans Kutschera-Aichberger

(Wien. Klin. Wochenschr. Nr. 22, 1930)

屍體解剖上肺尖加答兒ノ痕ヲ有スルモノハ九〇%ニシテ是等ノ大部分ハ進行セズシテ治癒セルモノデアル。肺結核ノ診斷上大切ナルハ初期ノ肺結核ニシテ殊ニ其ノ病機ガ進行シテ惡性ノ空洞ヲ作ル場合デアル。

此ノ空洞ヲ作ル惡性肺結核ノ初期ノ診斷ハ困難デアルガ「レントゲン」診斷法ノ進行ニ伴ヒ相當確實トナレリ。然シ乍ラ毎常「レントゲン」透射法ヲ以テ診斷ヲ行フコトハ實際上容易テナイ、而モ臨牀上此ノ惡性初期肺結核ハ充分注意シテ検査ヲ行フコトニヨリテ診斷ヲ下シ得ベシ。

著者ハ空洞ヲ形成スベキ初期肺結核ヲ感冒型、氣管枝加答兒型及出血型ノ三型ニ區別ス、其ノ内最後ノ出血型ハ患者ノ注意早ク且ツ診斷モ容易ナル爲メ早期ニ治癒シ得ベキモノ前二型ハ單純ナル疾患トノ鑑別困難ナリ。

此ノ際診斷上特ニ注意スベキハ熱型、倦怠、體重減少及喀痰ニシテ殊ニ喀痰ノ検査ハ診斷上決定的ノ意義ヲ有ス。(小野抄)

36 ザウエルブルッフ、ヘルマンズドルフェ

ル及ゲルソン(S. H. G.)氏等ノ結核食餌ノ

治療作用ハ如何ナル因子ニヨルカ

Dr. med. O. L. E. de Raedt

(Wien. Klin. Wochenschr. Nr. 24, 1930)

動物體ハ食鹽ヲ攝取セザル時胃酸ノ分泌ヲ減少ス。胃酸ノ分泌減少スル時ハ腸管内ニ於テ蛋白質ノ異常發酵盛ントナリ爲メニ「フェノール」或ハ「パラクレゾール」等ノ芳香性水酸化物產生セラレ體內ニ吸收セラル。此「フェノール」或ハ「パラクレゾール」ハ體內ニ於テ細菌及結核菌ニ對シ殺菌作用ヲ現ハス、S H G食餌ニ於ケル食鹽ヲ攝取セザルコトニヨリテ起ル結核治療機轉ハ此ノ原理ニ起因スサレバ植物性蛋白質ノ多量攝取ハ更ラニ「フェノール」產生ヲ盛ナラシム、然シナガラ我々食鹽ヲ含有セザル食物ニ對シテハ食慾ヲ減少スルノミナラズ胃内消化作用不充分ナル爲胃腸障礙ヲ起ス、此ノ點ハ結核患者ニ取リテ顧慮スベキコトナリ、又、植物性蛋白質ハ消化良好ナラズ。著者ハ動物性蛋白質ト共ニ肝油「フェノール」ヲ溶解セシメ一日量二百五十庭食後攝取セシムルコトヲ行ヒ結核患者ノ著明ナル恢復ヲ認メタリ。

37、「ツベルクリン」反應陰性ナル小兒ノ一

過性肺門部陰影

von Dr. Karl Diel

(Wien. Klin. Wochenschr. Nr. 27, 1930)

結核小兒ノ「レントゲン」透射ニ際シテ屢々肺門部ニ陰影ヲ見ルコトアルモ「ツベルクリン」反應陰性ナル小兒ニ於テ肺門部ニ陰影ヲ見ルコトハ稀デアリ。著者ハ最近六ヶ月間ニ咳嗽ヲ主訴トシ「ツベルクリン」反應全ク陰性ナル

小兒四名ニ於テ結核性肺門部陰影ト全ク透射上同シキ陰影ヲ肺門部ニ認メタリ、此ノ陰影ハ一過性ニシテ次第ニ縮小ス、其ノ陰影ハ頓坐性ノ肺門部ニ限局セル炎症ニ起因スヤン。

38、人工氣胸法及「ツベルクリン」

von Heinrich Mayrhofer

(Wien. Klin. Wochenschr. Nr. 29, 1930)

人工氣胸法實施ニ當リテ最モ忌ムベキ併發症ハ膿胸及肝脈形成テアル、更ラニ同様怖ルベキハ空氣栓塞テアル。此ノ空氣栓塞ヲ防グニハ先端鈍麻セル套管ヲ以テ氣胸ヲ行フベシ、然ルニ此ノ先端鈍麻セル套管ニテハ肋膜壁ニ強キ損傷ヲ作り爲メニ肋膜腔内ニ滲出液ノ増加ヲ來ス。

此ノ氣胸法ニ伴フ滲出性肋膜炎ノ豫防ニハ「ツベルクリン」療法ヲ併用スベシ、殊ニノイマン氏ノ所謂血流ヲ介シテ發生セル肺結核ニ於テ人工氣胸法及「ツベルクリン」療法ノ併用ニヨリテ忌ムベキ滲出液ノ形成ヲ豫防アルト共ニ肺結核病電ノ治療ヲ促進セシム。

39、肺臓及肺臓以外ノ結核ニ於ケル類症診

斷上ノ考查及觀察

Dr. Hans Mendl und Egon Waltuch

(Wien. Klin. Wochenschr. Nr. 30, 1930)

結核ト他ノ疾患殊ニ後期微毒トノ區別ハ甚ダ困難ナルモノニシテ臨牀上或ハ「レントゲン」検査ニテ結核ト考ヘラル、場合ニ於テモ尙微毒ノ疑ヲ以テ血清ノワツセルマン反應ノ検査ヲ行ヒ或ハ他ノ疾患トノ鑑別ニ慎重ナル考慮ヲ用ヒナバラヌ。

著者ハ結核ト診斷サレテ入院セル患者ニ就イテ其ノ原因ノ微毒ナルモノヲ屢

々認メ驅微毒療法ニヨリテ速ヤカニ治愈セリ、殊ニ肺臓以外ノ疾患ナル時ハ類症鑑別ガ甚タ大切デアル。

40、結核熱ノ藥物治療

(小野抄)

Leo Lindt

Wien. klin. Wochenschr. Nr. 32, 1930.

今日迄結核熱ノ引下ゲニ對シテ「ピラミドン」ヲ用フルモ「ピラミドン」ハ往々不快ナル症狀ノ下ニ解熱セシムル事アリ、然ルニ最近スタルクンスタイン氏ノ推賞セル「ピラミドン」及「ネロナール」ノ化合物「ネラモン」ナル解熱劑出ツ。此ノ「ネラモン」ナル新藥ハ「ピラミドン」ト「ネロナール」トノ兩者ノ缺點ヲ取り去レルモノニシテ其ノ鎮痛作用ヲ表ハス、殊ニ結核熱ニ對シテハ甚タ都合ヨク熱ハ「ピラミドン」ニ於ケルヨリモ徐々ニ下降シ持續時間長シ且ツ副作用少シ。

41、胎盤通過ニヨル結核菌感染ニ就イテ

(小野抄)

Isabolski, M. P., u. Gilowitsch, W. J.

(Zentralblatt f. Bakt. Parasitenk. u.

Infektionskr. Bd. 116, H. 6/8)

著者等ハ結核菌ノ濾過性ヲ認メ、胎盤ハ一種ノ濾過装置ニシテ結核菌ノ濾過性體ハ容易ニ胎盤ヲ通過シテ胎兒ニ感染ヲ起ス。出産小兒ハ之ノ濾過性體ニヨリテ比較的輕キ結核感染ヲ蒙ル、海猿ヲ用ヒテノ實驗。

42、進行セル結核患者ニ於ケル血清ノ血球凝集價ノ研究

凝集價ノ研究

F. Hölscher

(Zeitschr. f. Immunität Forsch. Bd. 66, H. 3/4.)

著者ハ健康者ト認メシ者ノワッセルマン反應検査及ツルバン—ゲルハルト兩氏ノ所謂第三期結核患者血清ニ就イテ其ノ同種族間血球凝集價ノ検査ヲ行ヒタルニ、對照四十二名ノワッセルマン反應検査血清ノ多數ガ百二十八倍ナリシニ第三期結核患者七十名ノ血清ニテハ多數ハ三十二倍ナリキ、即チ進行セル結核患者ノ血清ニ於テハ同種族間血球凝集價ハ甚ダシク下降ス。

血球型A B及Oノ血清ニ於テハ進行セル結核患者ニ於テモ健康者ト同様抗A凝集價高度ナリ。

43、「BCG」株ノ無毒性ノ問題ニ就イテ

M. P. Isabolski

(Zeitschr. f. Immunitäts Forsch. Bd. 67, H. 5/6.)

著者ハ海猿ノ皮下及腹腔内ニ「BCG」菌ヲ五—一〇—二〇疋注射シ三—至八ヶ月目ニ屠殺シ肉眼及組織的検査ヲ試ミタルニ結核菌ヲ有スル結核病竈ヲ内臟淋巴腺等ニ認ム、而シテ培養不可能ナリ。此ノ組織乳劑ヲ更ラニ海猿ノ皮下及腹腔内ニ二代三代ト移植ヲ試ミタルニ結核病竈ヲ形成セルモ第一代ニ比シ甚タ弱シ、尙寧丸内ニ一〇疋ノ「BCG」菌ヲ注射シ三乃至四週後其ノ乾酪變性部ヲ海猿ノ皮下及腹腔内ニ注射セルニ其ノ變化ハ皮下及腹腔内注射ニ比シテ強シ、此ノ解剖所見ヨリシテ「BCG」ハ海猿ニ對シテ病原性ヲ有セズ且ツ「BCG」菌ヲ以テ免疫セル海猿ハ「ツベルクリン」皮膚反應及「ツベルクリン」死ヲ起サズ。

著者ノ教室ニ保存セル「BCG」株ハ此ノ二年間ニ次第ニ減毒シツ、アリ、又分離當時甚ダ強毒ナリシ結核菌ヲ卵黃培地上ニ二十年間培養ヲ重キタルニ其ノ病原性ヲ全ク失ヘリ、著者ハ人工培地上ニ二代ヲ重ネタル結核菌ガ其ノ毒力ヲ

滅ズル原因ニ就キ目下研究中ナリ。

(小野抄)

44、喀痰内ノ結核菌ノ死滅ニ就イテ

K. W. Jöten u. Fr. Sartorius

Zeitschr. f. Immunität ForschBd. 67, H. 5/6.

著者ハ喀痰内ノ結核菌ヲ死滅セシムル藥物ノ消毒力ヲ検査セルニ「アルカリ」ヲ含有セル藥物最モ有效ニシテ、此ハ其ノ藥物が含有シ或ハ發生スル「アルカリ」ニヨリテ喀痰ガ先ヅ溶解セラレ次イテ藥物ノ消毒力ガ發揮サレテ結核菌ガ死滅スルモノナリ、此目的ニ該當セル藥物ニハ「アルカリゾール」、「パルメトール」、「クロラミン」或ハ「パチロール」、「ツスプロール」、「スファミン」、「ミアニン」等ニシテ「ゲロシキシル」、「ダイブライト」、「カブリット」、「ベルジール」及「ナトリウムペルホラート」等ハ不適當デアアル。

(小野抄)

會報並ニ雜報

○十二月中新人會者

木村亮藏 北海道帝國大學醫學部有馬内科
加藤利雄 右同
千種峰藏 大連市星ヶ浦水明莊五二一
日本赤十字 福井市
病院福井支部
内藤伊太郎 山梨縣北巨摩郡若神村二日市場
木村勇 熊本縣宇土郡戸馳「サナトリウム」

○會員ノ訃

左記會員ノ訃報ニ接ス、謹ミテ弔意ヲ表ス
望月惇一 關川 博道

○有馬賴吉博士歡迎會

本會在京評議員ハオスローニ於ケル萬國結核會議ニ出席シテ舊臘無事歸朝セラレタル有馬博士ノ歡迎會ヲ赤坂幸樂ニ於テ開催シ同博士ノ有益興味アル土産話ヲ聽取セリ、當日出席者左ノ如シ。

糸川欽也 春木秀次郎 本間英史
渡邊義政 加藤寛二郎 高野六郎
田澤録二 永井秀太 藤浪剛一
藤波正 二木謙三 近藤乾郎

- 小林 義雄 遠藤 繁情 有馬 賴吉
 佐藤 正 佐藤 恒丸 佐藤 秀三
 城井 尙義 宮川 米次 神保 孝太郎
 瀨川 昌世

○遠藤博士寄附

本會幹事遠藤繁清博士ハ本學會ニ對シテ壹千圓寄附セラレタリ。

○宿題及特別講演豫定

本學會ハ研究題目ノ性質上宿題及特別講演擔當者ニ對シテ時日不足ニヨリ御迷惑ヲカケ御氣ノ毒ノ點多々アルタメ次年度ノ宿題、特別講演ノ一部ヲ豫定シ置クハ機宜ニ適セル處置ナリトノ意見出テタルタメ宮川會長ヨリ前會長並幹事諸氏ニ諮リタル結果豫定トナリタルモノ左ノ如シ。

昭和七年 皮膚結核

- 松本 信 一教授
 佐藤 邦 雄教授

昭和八年 結核ト榮養

- 宮川 米 次教授
 田澤 鎌 二博士
 高野 六 郎博士
 佐藤 正 博士

○第八卷第十二號 貴島定和論文正誤

頁	行	誤	正
一四五五	二行目	強陽	強陽性
一四五七	表ノ中央	KA	K>A
同	終ヨリ二行目	等研究	等ノ研究

○同 貴島定和、澁川隆曹論文正誤

頁	行	誤	正
一四五九	一二行目	「スタイル」	「又タイトル」
一四六〇	二行目	五〇疋	五・〇疋
一四六〇	終ヨリ二行目	當菌ノ	尙菌ノ
一四六一	一〇行目	一一五強	一一五號
同	一二行目及一五行目	形	へ形